ほ　乳　類、鳥　類

ほ乳類は、落葉樹林帯～高山帯に生息する 15 科 39 種、鳥類は、主に樹林帯に生息する 35 科 102 種が確認されています。

絶滅のおそれのある種（IUCN・環境省・県のレッドデータブック等掲載種）

ヤマネ　■◎○●★

クマタカ　■◎○●

撮影／小池正明

絶滅のおそれのある種として、ほ乳類 34 種、鳥類 91 種が確認されています。これらの種は、生息環境の悪化や個体数の減少がこのまま継続すると、絶滅の可能性が高いと予測されています。

南アルプスで見られるほ乳類、鳥類のうち、IUCN（レッドリスト）ではクロホオヒゲコウモリ、モリアブラコウモリ、ヤマネ、ツキノワグマ等が、環境省（レッドリスト）ではクマタカ、イヌワシ、ライチョウ、ブッポウソウ等が「絶滅危惧種」として掲載されています。

分布が限られている種（日本固有種、南アルプス限定種、本州中部限定種等）

カモシカ　■◎●★

アズミトガリネズミ　◎○●★◆

撮影／三宅隆

日本に生息するカモシカ、ヒミズ等のほ乳類のほとんどが日本特産の固有種であり、大陸と陸続きであった時代に渡ってきた動物が、日本列島として分離された中で、種レベルまで分化していった過程を表しています。

南アルプスに生息するほ乳類のアズミトガリネズミや鳥類のライチョウは、本州中部の亜高山帯～高山帯に分布が限定されています。鳥類は、一般に飛翔能力が高いため、日本固有種率は低く、南アルプスでもライチョウ、ヤマドリ、アオゲラ等の限られた種だけとなっています。なお、分布が限定される種は、地域個体群の絶滅がその種の絶滅につながるので、その生息地は保全上重要な場所となります。

南限の種

ライチョウ　■◎○●★◆

ホンドオコジョ　◎○●★◆

撮影／佐藤元一

南アルプスが分布の南限となっているほ乳類はホンドオコジョ、アズミトガリネズミ、鳥類はライチョウです。

動物の生息は、取り巻く植生や異種間の相互作用による影響を受けやすく、特に高標高域に遺存する個体群などは、地史の主要な段階を表す顕著な見本となっています。

南限の動物は、地球規模の環境変動による直接的・間接的な影響への感度が高く、その存続が危ぶまれています。

生物多様性の維持（ニホンジカによる食害）

ニホンジカ　◎★

荒廃したお花畑

南アルプスでは近年、積雪低下などに起因するニホンジカの生息範囲の拡大や個体数の増加で、その食害や踏圧を主因とする「お花畑」の荒廃が問題化しています。「お花畑」の荒廃は、そこに生育する植物の消失につながるだけでなく、それに依存する高山蝶など他の生物にも影響が及ぶと危惧されています。

したがって、生物保全上の観点から現況調査と保全対策の実施が急務であり、現在、「お花畑」の植生復元を目的とした防鹿柵の設置等を実施しています。

法令や条例で保護されている種■、IUCN◎・環境省○・県●のレッドデータブック等の掲載種、分布限定種（日本固有種等）★、南限種◆